

## 1 テーマ

ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びについて（1年生：国語科）

## 2 テーマ設定の理由または、課題

- ・先を見据えて、低学年のうちから、できるだけICTの体験をさせ、ICTに興味をもたせるとともに、学習への意欲の向上につなげたい。
- ・人数が少ないため、自分の意見を他者に伝えたり、多様な意見や他者の良さに触れたりする機会があまりない。
- ・初めてのことや突然の変化に対して、動揺してしまう児童がいる。

## 3 実践内容

### ① 生活科で、デジカメを使って町探検やその報告を行った。

ドリルパークやオクリンクのお絵かき機能、ミュージックラボやデジタルカメラなど、1年生でできる範囲で積極的にICTを活用するように心掛けた。

町探検では、一人一台のデジタルカメラを持って、自分が気になる物を写真で撮らせた。さらに、それを大型テレビに映して、互いに紹介し合ったり、報告書に取り入れたりすることで、自分の撮った画像を有効に活用できるように工夫した。



### ② リモートによる他校との交流

1クラス2人の少人数であることから、多様な意見を聞く機会が少なく、他校の友達と交流することに抵抗のある児童もいるという実態から、ミーティングでリモート授業を行った。今回は、国語を扱い、①本読み発表、②しりとり遊び、③好きなものの紹介、の3つで、授業を構成した。この授業を実践する上では、まず最初に浦川小と佐久間小との全校自己紹介が5月中旬に実施されたことがベースになっている。続いて、5月中旬に低学年同士の交流を行い、6月下旬に1年生同士で顔合わせと当日の授業の流れの確認をした上で、7月上旬の国語科の授業当日を迎えている。



## 4 成果と課題

- ドリルパークやオクリンク、デジタルカメラ等に積極的に触れさせることで、子供たちは、クロムブックに大変興味を示し、1学期半ばには、自分で立ち上げたり、ログアウトしたりできるようになった。時間があれば、クロムブックに触っている場面が見られ、今後の活用に向けた良い導入ができたと思う。
- 少人数のため、多様な意見を聞けないという現状だが、リモート授業での交流をすることで、他校の友達の音読の様子を見聞きしたり、好きなものを知ったりすることができ、とても刺激になったようだった。好きなものの紹介では、紹介したことを作文に書き、冊子にして見合うことで、さらにお互いの良さを知ることができた。
- 他校の児童と交流するのが苦手だった児童が、リモートでの交流を段階的に仕組むことで、国語の授業当日では、落ち着いて授業に参加することができ、本人の自信にもつながった。